１０月度「京都学ラウンジ　ミニ講座」（開催報告）

2019年10月31日
京 都 学 ・ 歴 彩 館
075−723−4835

京都学・歴彩館では、京都について学ぶ楽しみを広げる目的で、毎週木曜日に「京都学ラウンジ　ミニ講座」を開催しております。この度１０月３日（木）～１０月３１日（木）にかけて「皇室と京都」と題して、５回開催しましたので、下記のとおり報告します。

記

■ 日　　時　　２０１９年 １０月３日・１０日・１７日・２４日・３１日
いずれも木曜日１３：３０～１４：００

■ 会　　場　　京都府立京都学・歴彩館 京都学ラウンジ

■ 参加者数　　４０名（３日）、４４名（１０日）、４２名（１７日）、３６名（２４日）、
３９名（３１日）　合計　２０１名

■ 内　　容　「皇室と京都」（全５回）

第１回　皇女和宮ー京と江戸をむすぶー　（講師：資料課　田中　まさみ）
第２回　明治天皇陵～西の陵、東の杜～　（講師：資料課　若林　正博）
第３回　明治大礼と吉田初三郎　（講師：資料課　松田　万智子）
第４回　大正大礼の記念事業から
ー『京都府誌』と『京都叢書』の刊行ー　（講師：資料課　楠　久美）
第５回　徳仁親王殿下のお成り　（講師：資料課　小森　浩一）

■ 講座の様子

「京」・「都」という漢字はミヤコと訓む。では「京都」と書いたらどう訓むか？二文字で「ミヤコ」とも訓むのをご存じだろうか。現在、「京都」と言えば、かつて平安京が営まれ、代々天皇が生活していた京都市周辺および京都府域を思い浮かべるであろう。ただ「京都」と書き「ミヤコ」と訓む地は福岡県にもある。しかし、「京都」と言われ、景行天皇が行宮を営んだことに由来するというこの福岡の地を思い浮かべる人は多くないであろう。何故か。それは平安時代以来、明治にいたるまで天皇が住み続け、日本の中心たる地位を築いてきたことによるだろう。明治になり天皇皇族は東京へ遷り住んだが、御所は京都に残り、天皇の即位儀礼などは京都で行われるなど京都と天皇家との関係は残り続けた。しかし、現上皇と今上の即位儀礼は東京で行われるなど状況は大きく変わっている。

本ミニ講座は展示室で開催中の「双京　京の夢、江戸の夢」の関連企画として開催し京都と東京は、皇室とのどのような関係をもって今日の地位を築いてきたのか。当館所蔵資料を用い、資料課職員がそれぞれの立場から分かりやすくお話しした。今後京都が一地方都市に埋没することなく、確固たる地位を築くために何をすべきかを考える機会ともなり、また各回多くの参加者を得て、好評を博した。